

指導資料

 鹿児島県総合教育センター

特別支援教育第178号

—幼稚園，小学校，中学校，特別支援学校対象—
平成26年10月発行

自閉症・情緒障害特別支援学級における朝の会活動について

自閉症・情緒障害特別支援学級の対象は、「一 自閉症又はそれに類するもので、他人との意思疎通及び対人関係の形成が困難である程度のもので」、「二 主として心理的な要因による選択制かん黙等があるもので、社会生活への適応が困難である程度のもので」とある（平成25年10月4日付け25文科初第756号「障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について（通知）」）。しかし、自閉症・情緒障害特別支援学級には、知的障害を併せ有する児童生徒も多く在籍しているのが現状である。

したがって、自閉症・情緒障害特別支援学級においては、情緒の安定を図り、集団に円滑に適応していくことができるようにするために、児童生徒の多様な実態に応じて、個と集団が相互に作用し、ともに生きる指導を工夫する必要がある。

そこで、本稿では、一日や一月の予定を見通すことで情緒の安定を図り、個と集団がともに生きる指導として、「各教科等を合わせた指導（次項で説明）」の「日常生活の指導」における朝の会活動を取り上げ、その実践例を述べる。

1 「日常生活の指導」とは

特別支援学級においては、学校教育法施行規則第138号の規定により、児童生徒の実態に応じて、特に必要がある場合は特別支援学校の教育課程を取り入れることができる。そこで、各教科、道徳、特別活動及び自立活動（以下、「各教科等」という。）を合わせて指導を行う場合がある。この各教科等を合わせた指導は「日常生活の指導」、「遊びの指導」、「生活単元学習」、「作業学習」などとして実践されている。

「日常生活の指導」の指導内容として、具体的には、着替え、食事、手洗い、排泄^{せつ}、整理整頓など基本的な生活習慣に関する内容や、挨拶、言葉遣い、係活動、きまりを守ることなどの集団生活に必要な内容に重点が置かれる。毎日、繰り返しの指導ができるように時間割に位置付けられ、具体的には「朝の会」、「帰りの会」、「掃除」などの時間以外に、日常生活の流れに沿って、実際的な状況の中で指導する。

なお、以下に示すようなポイントに配慮することが大切である。

- ・ 日常生活の流れ（必然性）の中で指導すること。
- ・ 毎日反復して行い、望ましい生活習慣の形成を図り、継続的に取り組むこと。
- ・ できつつあることや意欲的な面を把握し、適切な援助と段階的な指導をすること。
- ・ 指導場面や集団の大きさなど、活動の特徴を踏まえ個々の実態に応じた効果的な指導を行うこと。
- ・ 定着を図るためには、家庭との連携が重要であるなど

2 自閉症・情緒障害特別支援学級における「日常生活の指導」の意義

自閉症等のある幼児児童生徒の場合、発達の遅れによる技能の習得の困難さというより、「箸やフォークなどが使えるのに手づかみで食べる。」「勝手に人のものを食べる。」などの社会生活における判断力の弱さや衝動的な行動、「極端に偏食をする。」「同じ色の服だけを着る。」などの固執性といった障害特性に起因する困難さが課題になる。したがって、一人一人の課題に応じて、学習の内容を具体的、実際的な状況下で身に付けることができるように、計画的、段階的に指導することが求められる。

その点で「日常生活の指導」は、自閉症のいわゆる「三つ組み」（「他人との社会的関係づくりの困難さ」、「言語発達の遅れ」、「興味や関心の狭さ、特定のものへのこだわり」）や情緒障害に見られる選択性かん黙等に対し、具体的、実際的な状況で指導できるので有効である。

また、児童生徒の実態に応じて集団で活動することで、人との関わりの中に存在するルールや社会性を指導することができる。そこで、学級で他の児童生徒や教職員と一緒に活動する喜びや楽しさを味わい、集団

の雰囲気慣れることをねらいとした指導を行うには、一日の始まりにおける朝の会活動は効果的である。

3 自閉症・情緒障害特別支援学級における効果的な朝の会活動の指導例

(1) 着替えの整理

登校後等に、教師と一緒に確認をしながら指導を行うことが有効である。

写真1のように、入れ物には洗濯物や下着等の表示をして、どこに何を入れるかを明示し、児童生徒が自分で着替えた衣服類を整理できるようにする。教師と表示を読みながら確認をすることで、更に定着を図ることができる。その際は適切な評価のために見届けを確実にを行い、「新しい服と汚れた服を分けることができたこと」、「汚れた服を区別して袋に入れることができたこと」、「服を畳んで置くことができたこと」など、できたことを細かく分類して賞賛する。



写真1 着替え類の整理箱（例）

特に、小学校高学年や中学校では、児童生徒の実態に応じて、着替えの場所や着替え方、エチケットも含めた身の回りの処理などで、適切な支援をしていくことも大切である。

(2) 当番活動（係活動）

当番活動（係活動）は、集団の一員としての自覚や責任感を高め、勤労を重視する観点からも大切な活動である。学級集団の中の一員として、一人一人の実態に応じた指導の工夫が必要である。



写真2 当番活動の表示（例）

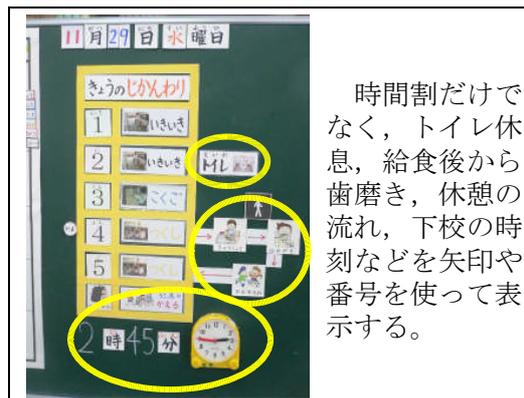
例えば、児童生徒が進んで活動ができるように、活動の写真と活動内容を文で示したカードも有効である（写真2）。さらに、現在活動中の表示と活動終了の表示で区別することにより、児童生徒はもちろん、見届ける教師も活動の経過を知ることができ、適切な評価と指導につなげることができる。

(3) 日課表等の確認

自閉症等のある幼児児童生徒にとって、一日の生活の流れや今後の見通しをもつことは、その障害の特性上、とても大切な活動である。学校生活を安心して過ごせるようにし、そして、仮にスケジュールの変更があった場合にも柔軟に対応できるようにするためにも、写真3、4のような活動を継続することが大切である。

一日の生活リズムや時間割に沿って活動する習慣が身に付くと、学級の環境が分かり、情緒が安定して活動に参加する

ことができるようになる。



時間割だけでなく、トイレ休息、給食後から歯磨き、休憩の流れ、下校の時刻などを矢印や番号を使って表示する。

写真3 時間割の確認（例）

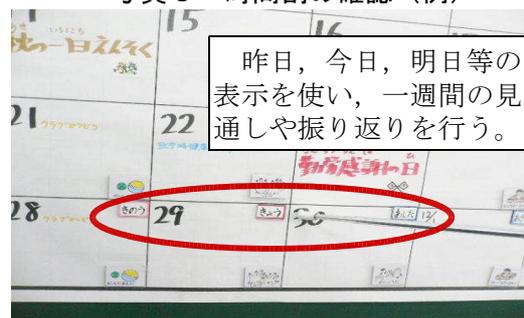


写真4 週行事等の確認（例）

(4) 掃除の仕方

掃除の際も、幼児児童生徒が意欲を持続させ、自分がうまくできたことと集団でできたことに対する達成感を抱かせる支援が必要である。

写真5は、拭き掃除の区間を視覚的に示した指導例である。床に貼ったビニルテープに沿って拭くことで、床の板目を意識させることができる。また、細かく切った紙を床にまき、ほうきで集めることで、掃除の達成感を味わわせる方法などもある。



写真5 掃除区間の視覚的提示（例）

(5) 朝の会の活動例

この活動は、時間割の1時間目に帯状に設定したものである。年間目標は個別の指導計画に基づいて設定し、評価と合わせて、随時見直しを行うことが大切である。

<p>1 題材 みんないきいき楽しく活動しよう</p> <p>2 児童について 小学1年生から6年生までの自閉症の男子7人。全員、知的障害を併せ有している。</p> <p>3 年間目標</p> <p>(1) 楽しい雰囲気の中で活動することにより、情緒の安定を図るとともに、今日の日やこれからの生活に楽しみや見通しをもつことができるようにする。</p> <p>(2) 割当ての当番活動を進んで果たしたり、活動へ取り組む方法を充実させたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 場面に応じた挨拶や、人とのやりとりができるようにする。</p> <p>(4) 文字・文章・数・音楽に親しみ、関心をもつことができるようにする。</p> <p>(5) 時間や時刻が分かり、「今日、明日、明後日、昨日、今週、来週、再来週、先週」などの時を表す言葉に分かることができるようにする。</p> <p>(6) 話す、聞くなどの学習の基礎を身に付けることができるようにする。</p> <p>4 指導の実際 ○指導 ※評価</p>		
時間	主な学習活動	教師の指導と評価
(分) ↑ 10 ↓	<p>1 朝の会をする。</p> <p>(1) 朝の挨拶をする。</p> <p>(2) 健康観察をする。</p> <p>(3) 今月の歌を歌う。</p>	<p>○ よい姿勢ができていない児童を賞賛し、全員が姿勢を正すことができるように促す。</p> <p>○ 名前を呼ばれたらはっきりと返事ができるように「大きな声で『はい』と返事をしようね。」と言葉を掛ける。</p> <p>※ よい姿勢で挨拶をしたり、言葉のやりとりをしたりすることができる。</p> <p>○ 大きな声と笑顔で歌うことができるように歌詞カードを指しながら、「○○さん、口を大きく開けて歌おう。」と言葉を掛ける。</p> <p>※ 大きな声と笑顔で歌うことができる。</p>
↑ 35 ↓	<p>2 当番活動をする。</p> <p>○ 日直は健康観察簿を保健室へ持って行き、他の児童は、その間に当番活動をする。</p> <p>3 今日の日付・曜日・天気を言う。</p> <p>4 担任のメッセージを読む。</p> <p>5 大型のカレンダーや時間割表で、行事等を確認する。</p> <p>6 次の学習の開始時刻を確認する。</p>	<p>○ 当番活動に取り組み、自己有用感を感じることができるように、「やったマーク」を与え、大いに賞賛する。</p> <p>※ 当番活動に取り組むことができる。</p> <p>○ 児童が今日の日付等を理解できるように、一人ずつ発表する。</p> <p>○ 音読や平仮名の拾い読みに対する自信が深まるように、よかったところを話し、大いに賞賛する。</p> <p>※ 音読をしたり、内容を理解したりすることができる。</p> <p>○ 今日の日付や一週間に楽しみや見通しをもつことができるように、時を表す言葉のシールを貼ったり、時間割を確認したりする活動を設定する。</p> <p>※ 「きょう」、「あした」等のシールを所定の場所に貼ることができる。</p> <p>○ 次の学習開始時刻を理解できるように、模型の時計を準備し、開始時刻を表す活動を設定する。</p>

特別支援学級においては、学級経営目標と個別の教育支援計画や個別の指導計画で設定した個々の目標を関連させ、実態に即した教育活動を展開している。今後も、各教科や朝の会活動など、具体的、実際的な状況における「日常生活の指導」等の指導を通して、個と集団がともに生きる学級経営を進めていきたい。

—参考文献—

- 文部科学省『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』平成20年3月告示
- 文部科学省『特別支援学校小学部・中学部指導要領』平成21年3月告示，海文堂出版
- 茨城県教育研修センター特別支援教育研修課『特別支援学級スタート応援ブック【授業づくり編】』平成25年3月
- 国立特別支援教育総合研究所Webページ『(1)自閉症・情緒障害特別支援学級における指導』
<http://www.nise.go.jp/cms/13,967,49,203.html>
平成26年7月11日アクセス

(企画課)